



大岡 元岡 雜則 著  
 政談 村井長菴調合机  
 三編 下

74  
 873  
 9



873  
9

岡田

大岡政談 村井長庵調合机卷之九

東京 元岡維則編次

三三三  
上  
講求

第十七回 敗家に宿して旅客妖魔に逢ふ

忠臣義僕ハ世の常なり。郷善人有るは人自より其教化にうつる。一家を治るも又是れ同じ。まじはるる人其志を清くしめて只一人の身はと事。其管に泥濁を加之。過ると心術を解きける。平昔師も頼に凌辱して。竟に前言に踏ひ。善人の心を損ふ。事致す。初と打捨て。後日商賈の事。の。勉勵。あけ。け。ま。を。著。く。せ。ま。に。附。目。を。送。り。ぬ。ま。ま。は。又。彼。の。三。州。へ。志。す。た。る。お。も。い。の。三。次。心。の。念。交。り。此。乃。似。る。事。も。圓。ら。ま。も。皆。徳。の。仁。力。と。を。勤。め。て。速。速。と。成。一。漸。

大岡政談卷之九

三三三  
講求

873  
9

しく法務奉行村に到る。其勲功を將勲助と賞するに打寄り、  
 州へ送りせし。尚守りてが有る。詮断あけは六太山に却り仁  
 丸三分圓向と違せしめ。返りしに亦傍見と南儀と極め、松本之西に  
 向つて赤と多し。日か手去山に着けり。仁丸三三次を將て友  
 人がゑにあり。昔日賞與へし。今の借債を成せし。只似せ。其  
 衆く書し。居る。体今後男の成成らむ。漸に成る。今合の事  
 をほめ。ある。山とまつて返り。仁丸三三三。我田  
 令三平田あり。其く。ま田とま田。今思ひに。半片計の合。其  
 道守も。虚に。狂。田と。費。も。成。難。是。り。入。迷。く。と。妙  
 と。ま。通。り。和。後。が。南。と。持。有。け。狂。見。各。所。開。り。も。ま。後。の。る。に

せん。只儉約しく。壽考と減さる。肝要あり。と。入。心。通。り。も。む。く  
 と。ま。通。り。路。と。急。ぎ。又。も。法。務。村。に。ま。寄。り。勲。助。が。宅。を。問。に  
 妻。あ。り。と。我。夫。婿。體。妙。の。地。不。二。月。後。の。道。尚。ま。ま。の。書。出。届。き  
 たり。コ。親。族。の。老。れ。込。一。年。論。り。有。り。是。と。満。一。ぼ。せ。ま。ん。を。坊  
 宅。成。り。難。ら。り。村。名。宿。所。も。詳。ら。に。知。れ。居。り。和。後。連。延  
 り。通。り。と。ま。通。り。ま。と。面。後。成。り。た。り。と。あ。り。ぬ。仁。丸。三。三。思。案  
 成。し。は。り。不。通。り。ん。た。に。決。し。ら。む。相。と。ま。通。り。を。流。る。に。三。次  
 も。心。に。し。り。と。地。名。宿。所。を。問。て。流。る。ま。と。書。記。一。通。り  
 用。事。の。好。ま。と。若。き。の。眼。を。迷。し。仁。丸。三。三。快。活。踏。河。路。と。引  
 通。り。ぬ。二。入。の。道。路。に。あ。ら。む。名。地。を。妙。掛。川。子。を。着。く。と。仁。丸。三

旅店に有る。一私會傷命。吐瀉後の痛限り多し。甚く苦む。  
 命も危く。是れ有極に。此れも驚く。一方の。旅店の。主は。私  
 て。國を。往く。之。強。く。に。湯。を。煮。わ。し。効。有。て。吐。瀉。の。留。り。た。ま。も。  
 手。後。の。病。状。疾。疾。に。類。し。急。を。漸。熱。身。に。汗。を。以。て。勞。を。一。夕。に。愈。  
 へ。ま。に。非。ず。五。日。と。経。く。意。心。も。熱。盛。に。て。護。符。を。有。る。体。  
 二。階。の。湯。を。て。胸。を。挂。十。分。の。手。當。せ。ん。を。全。治。成。り。難。く。思。惟。  
 して。け。し。六。角。の。一。間。と。借。切。り。書。一。此。地。の。良。馬。を。迎。い。て。出。術。を。  
 乞。ふ。に。函。も。一。房。と。用。ひ。日。數。二。四。日。と。経。く。今。く。治。り。た。  
 る。多。く。は。し。り。程。後。の。書。を。送。り。一。古。紙。と。は。亦。其。道。當。り。  
 漸。五。月。乃。も。一。め。に。掛。川。と。申。す。一。處。居。一。は。此。以。り。物。入。に。

亦。各。情。申。の。病。を。荒。増。甚。し。に。九。と。が。山。に。て。好。く。今。南。と  
 寄。へ。も。跡。り。亦。に。減。少。し。て。惣。助。が。宿。を。申。す。到。らん。也。踏。後。  
 心。り。し。や。三。次。中。に。も。惣。助。が。留。り。居。る。要。府。守。より。甲。府。守。延。  
 乃。四。へ。申。す。道。中。も。平。船。と。云。る。村。屋。あり。ま。が。踏。後。遠。り。有。  
 り。踏。費。の。才。覚。為。ん。を。進。退。夜。を。失。ふ。る。生。計。外。に。行。し。  
 器。財。あ。ら。二。個。器。更。の。名。類。も。賣。持。ひ。致。て。本。所。で。の。踏。費。  
 を。用。こ。ま。ま。一。と。不。せ。六。に。九。と。も。程。方。多。く。ま。ま。に。酒。の。量。に。  
 名。類。烟。草。入。ん。ど。を。賣。却。し。て。聊。の。金。に。樽。へ。送。路。も。費。と。を。  
 ぶ。ま。て。歩。一。其。も。も。仁。九。と。踏。氣。の。後。わ。れ。踏。も。中。に。果。敢。回。  
 り。も。踏。の。府。守。に。ま。せ。一。は。亦。く。名。令。踏。後。に。居。たり。三。次。仁。九。と。

勵まし平野の村に遠くは非を。君と世満まるとも思はるる入  
 日無けん。身も健に成た。べ。成まき火の道とまむがね。羊黄銀  
 雅を凌まき。や平野の村はふさ。たり。三次書付とれ歩  
 て姓名を懐と。着助と家と同歩に。迷入てか。く。ま家  
 知まけまき。先づつ入つ。惣助と尋ぬるに。打能く。宅に居合  
 せり。之が。安味。強く對面。て。書簡を渡  
 某。か。家の。二。次。と。呼ぶ。若。長。信。主。と。四。と。友。あり。妻。あ。り  
 一。紙。の。中。に。惣。助。有。り。一。通。り。懐。ま。り。べ。書。約。せ。一。團。結。の。紐。は  
 の。二。條。に。有。り。と。迷。け。ま。く。惣。助。ま。ま。に。尺。素。と。丸。て。刺。し。懐。ま。り  
 に。物。せ。一。刀。使。者。三。次。に。持。せ。惣。助。ま。ま。に。起。ま。控。直。乃。代。價。使

の。考。に。高。儀。有。り。ま。ま。中。書。記。一。有。り。惣。助。三。人。と。一。團。通。一。水  
 尺。素。の。紐。は。惣。助。の。連。く。其。刀。一。見。ま。り。と。一。紙。に。包。と。引。ま。り  
 養。一。年。一。年。作。の。一。刀。若。儀。が。ら。と。結。く。抱。く。一。か。わ。び。眼  
 と。驚。ろ。ろ。と。行。り。あ。る。と。信。に。い。ま。一。件。惣。助。が。お。に。聞。き。能。く。見  
 改。め。り。人。と。ま。り。惣。助。は。信。を。ぬ。け。つ。の。花。あ。ら。と。ま。り。コ。ハ。モ  
 進。入。り。懐。ま。り。と。ま。り。然。し。も。惣。助。は。昔。一。見。一。見。の。品  
 々。と。聞。ひ。有。り。あ。ら。ま。り。惣。助。は。あ。ら。ま。り。有。り。わ。り。と。ま。り。懐。ま。り。を  
 惣。助。向。面。を。ま。り。肩。根。と。ま。り。と。一。紙。に。包。ひ。ま。り。連。入。り。身  
 の。こ。ま。り。た。ま。り。ま。り。何。あ。る。故。を。ま。り。團。結。に。非。が。わ。り。未。め。信  
 々。と。ま。り。父。が。ま。り。一。件。印。火。成。り。遠。く。ま。り。ま。り。ま。り。た。ま。り

有難りね。来る高浪の年に敵陣と懸りぬ。二河の陣に  
 敵て色にも敵いさ。我軍彼の志に。右軍の細く。情  
 らぬ。中わ。然い。と。つ。の。品。と。通。を。方。に。送。り。  
 陸軍も費少。か。う。と。は。長。信。の。信。中。の。確。と。も。後。物。と。送。り。  
 いる。有。さ。ま。く。思。ひ。お。後。の。時。に。い。え。さ。あ。れ。ば。身。は。是。邊  
 の。有。り。や。と。ん。と。面。を。回。して。さ。へ。お。助。け。を。左。方。に。振。り。清  
 て。左。に。陣。を。進。め。進。り。敵。軍。一。見。し。は。後。を。焼。き。て。且。二。筋。の  
 通。り。今。頃。の。身。は。焼。き。極。り。も。も。も。回。入。の。地。に。さ。づ。け  
 せ。ど。も。新。進。ま。ら。ば。戦。も。ん。に。疑。ひ。起。り。来。る。心。御。も。あ。り。畢竟。長  
 流。敵。と。戦。と。一。か。水。と。二。は。持。返。つ。て。右。の。由。と。通。り。さ。づ。け。

他の具は連。元。の。國。領。か。ら。何。つ。持。来。り。あ。ら。う。も。商  
 海。波。も。風。も。我。今。日。用。向。有。く。長。く。流。況。も。為。し。居。難。し。と。  
 恨。差。と。頼。に。納。め。て。三。次。に。返。す。欺。き。し。と。察。して。腹。を。げ。ん。意。に。登  
 と。退。つ。く。俄。く。小。舟。を。差。上。へ。何。れ。と。出。り。ぬ。座。も。向。け。幸。れ。齧  
 齧。せ。る。と。見。え。く。仁。九。三。強。に。力。と。落。せ。し。体。に。三。次。も。拘。押。移。り。わ。ら  
 ざ。れ。い。も。あ。ら。う。と。思。は。れ。さ。る。り。あ。わ。ら。ぬ。今。更。に。流。方。か。く。潮。汗。を  
 て。此。軍。の。主。に。陸。軍。に。是。一。類。業。と。告。げ。し。て。一。と。軍。を。振。差。と。相  
 あ。さ。り。て。中。府。ま。で。の。路。向。と。な。し。し。ま。り。ま。り。入。り。ま。り。白。米  
 に。升。と。包。み。く。こ。こ。に。其。人。を。も。と。取。り。お。も。い。と。な。り。つ。く  
 り。ち。も。い。ま。も。こ。こ。に。関。係。せ。ざ。り。と。決。然。と。處。へ。し。梅。を









歌家  
 三  
 次  
 仁  
 九  
 三  
 妖  
 怪  
 達  
 小  
 三

大岡政談卷之九

八

家永堂藏版



仁九三

大岡政談卷之九

家永堂藏版

寛るに旗の疲勞の息地を後と忘る言辭を痛むる。其  
 るに程なく旗に傍ある荷物と捨探る者あり。三度目見ると忽  
 地眼と覺し。暫くも荷物の内。旗版と出せし。我定て  
 求る事にんらと奪つても。用をこの食物と持ちて。食せし  
 と云ふに九も目を覺し。起揚り。我まも食物のよと云ふ。旗  
 も心甘きうらと。むちに荷物を捨探り。引去りて。捨魚と版とを  
 出さん。とまらに不思議や。其物の色解き。やうく食物のなも。から  
 ぬ。次母の五極と見ると大に怪し。其に火お置械と云ふ。と  
 中に旗版と版。壁の類と。う。奥の間と透し見ると。怪し。其今  
 の坊主の火ある。四汁標のや。程と。奥の小坊主。有て。鼻と。捨魚  
 と。捨り。版と。口を。う。く。食ひ。居。あり。刻に。その。形。額。異。形。あり。

あり。二。目。あり。又。三。目。あり。有。り。双。眼。田。大。け。て。後。を。悪。く。か。く。け。る  
 あり。母。方。と。目。返。り。て。苦。笑。ひ。き。き。る。面。魂。充。悪。あ。る。り。ん。方。を。  
 仁。五。三。不。款。の。男。を。も。恐。ろ。く。逃。れ。て。常。引。ひ。て。目。を。か。へ。り。力。と。抜  
 け。く。と。涙。に。目。加。せ。し。奴。奴。程。の。類。に。疑。ひ。を。引。捕。り。て。目。に。物。見  
 せん。我。も。食。と。喰。と。食。ひ。一。拳。動。惜。さ。も。惜。し。と。一。拳。喰。ひ。て。斫。て  
 今。の。異。形。の。変化。を。他。に。消。失。て。目。に。遮。る。お。つ。つ。も。か。し。二。次。も。目  
 一。く。捨。身。と。掘。け。付。苗。ん。と。心。と。死。ま。し。と。形。乃。見。く。ま。る。に。雷。怒。し  
 くと。為。ま。き。極。ち。く。在。中。と。只。見。せ。し。姿。と。そ。見。へ。び。ま。き。と。も。家。乃  
 肉。に。ひ。き。ま。居。ん。角。の。刀。を。斫。掛。ひ。見。ね。と。敷。圍。々。と。掘。り。と。掘。

四一。府中と確りあひけべに九三も同じ。根を踏つて立發  
 ぐに。如何に思もあらざる家の外面に珍有る。二人と目掛け  
 小石と投入する。百の隙がぬ。二人の首こゝろで楯とあり。飛來る石  
 と防ぎ齒咬と成して外面と睨め付け。ア面憎き妖怪が奉勅  
 我二匹ありと。今宵生捕らむ。腹と下と。今心と落付け。如何  
 再もして形と見ぬ。えん物と。工更と毒を打つ。焚き了。指火  
 稍消て。元のさう書と成りぬ。替り有る石の飛來る。止も忽ち九  
 三が後ろに。何々と笑ひ珍有る。二夜路を揚て。見ぬ。形形  
 ある坊主の眼と睜り。口と開く。今や仁九三と一口に食ん。嘴  
 く。二夜路に思入。捕らぬ。我す。狸のくを驚く。形とる。現せ。徳の

全體返つて。低く有り。下とお拂。必を妖と討。苗と今。極。見  
 べ。と俄に身と躍り。腹もて。妖怪が下と横振に。破拂。へ。意して  
 一聲叫び。家の外面へ。近出る。足音有り。狸も。坊主に。消て。後  
 何の不思議も。あり。二夜路。今切掛。ひ。一。力。燃う。に。又。先。に。あ  
 物有り。たり。心。く。狸の類を。切。付。一。力。燃う。に。又。先。に。あ  
 碎。れ。後。の。退。散。か。り。も。又。来。つ。く。仇。せん。も。志。す。下。決  
 しく。油。割。の。為。へ。う。ぐ。と。示。一。行。も。枯。木。を。捨。ひ。集。め。る。類。に  
 方。と。焚。き。服。を。接。ち。る。傍。に。傍。に。接。ち。入。る。と。又。に。寐。ぎ。て。傍  
 辺。に。ま。ぐ。り。居。る。に。夜。の。短。く。一。夜。の。時。に。白。く。残。星。光。と。流  
 しく。霧。已。に。消。んと。す。三。夜。に。九。三。大。い。力。と。は。夜。の。ぬ。ま。の。妖。物

再び来るる有べしと云々長くは更に止り居る何せん早や出さま  
 べしと云々ゆと云々草鞋と穿と。月掛らふかしく。此處を覗くと  
 昔一山禪師の住居せし家ありん城の二ツ家あり。壁を  
 床落く。家の内縁をあんど。生虫あり。程つらの古き筵敷に  
 あり。仁衣を指し。と次に向ひ。時夜坊主が我々に候へ  
 一食の筵敷あり。他のもに心付ざれば。狐狸の窟に敷  
 きたり。思ふに和まぐ唯候し。其くらま。食物と盗み食ん  
 策あり有。忌。と目に逢たり。形も白痴也。も。湯水の後の  
 一茶くと語り合ひ。終つは林中と立去り。又林の村に出農  
 家と程と踏。ある白米と炊きて。食物と用。道路の險難と

逢りて。玉境の山路と越。大城の孤村と歴て。漸く八日市場の  
 狭き道を。去り。去るに。次に女と將。已が四友の家に見  
 り。高法遊戯。ふ。路に。田舎。格。其。其  
 て。宿を。程。彼の。口と。出。て。む。易。も。其。其  
 管にお。け。も。家の。ま。も。其。思。を。和。と。刀  
 を。玩。ふ。く。と。雲。ね。雲。波。さん。形。と。成。に。片。の。甲。の。人。か。も。と。渡  
 定。に。も。せ。し。者。も。あ。り。四。田。の。も。も。求。め。も。ん。と。云。る。人。か。一  
 等の。買。入。也。が。も。り。り。り。二。決。約。を。定。め。竟。に。原。力。と。當。却。  
 て。四。片。の。命。を。懐。中。に。納。め。又。當。を。去。て。甲。府。の。街。權。に。さ。り。り。  
 此地も。越。して。青。梅。の。街。道。に。近。き。岩。ま。と。なる。村。落。に。た。り。り。看



狗舟いぬふねが河かに有あるやと問とひたり。三波さんなみのち橋はし子こと物もの借かつて。仁丸にまるが病あやと守まもり保たもつる。屋やの口くちにおもひの鬼おにまはさむ。舟ふねの橋はしく丈だけ動うごめ見みんと  
昔むかしへさう。三波さんなみも又また問とひて。屋やの口くちに仁丸にまるの影かげをうけ。あつたまに二  
名なと健たけて。家いえに連つきさ。委あつ細こと物もの借かつて。二人ふにんとも家いえの口くちに  
返かへり。屋やは目めの。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。  
有ある。三波さんなみは目めの。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。  
三波さんなみに連つき。密ひそかに外そとへ出でると。好このめり。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。  
二人ふにんの指さし目めの。密ひそかに外そとへ出でると。好このめり。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。  
後のちと知しる。三波さんなみは目めの。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。  
押おしひて。家いえと出でると。密ひそかに外そとへ出でると。好このめり。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。

権けんと拾ひろひ。花はなを散ちる。お州おしゅう着ちやくき。廻まわる。五ご橋はしは。家いえの  
男おとこ徳とく助すけと。若わか者ものを驚おどかして。眼まなこを先まへへ。後のちまわると。返かへり。志こころに娘むすめと  
押おしひ。審たんの口くちに。叫こゑひひり。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。  
一いち回まいを見みる。娘むすめは居いらる。密ひそかに外そとへ出でると。好このめり。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。  
向むかひ。去いり。出でる。傍そばを見みせ。志こころに。密ひそかに外そとへ出でると。好このめり。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。  
一いち人にんを見みる。大おほい。匂におひ。娘むすめは居いらる。密ひそかに外そとへ出でると。好このめり。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。  
仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。密ひそかに外そとへ出でると。好このめり。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。  
仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。密ひそかに外そとへ出でると。好このめり。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。  
仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。密ひそかに外そとへ出でると。好このめり。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。  
仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。密ひそかに外そとへ出でると。好このめり。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。  
仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。密ひそかに外そとへ出でると。好このめり。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。  
仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。密ひそかに外そとへ出でると。好このめり。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。  
仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。密ひそかに外そとへ出でると。好このめり。仁丸にまるは三波さんなみの指さし目めの。

地小倉り。秋海等が種木のあへんせ。後令娘出て何をもたせんと  
 も。何を我等が後後たらん。地活るを掛る白虎と。聖り付と  
 徳助も又倉り。汝が如き奴の春果だんを。暇に覚と。漸と下  
 りあり。右のをもと振揚ぐ。仁五三が歌を打に。仁五三今ハ橋  
 下で徳助と捕へく。携り休せ。巻と振つくと。流ると。まくと。うに  
 打ちたり。是よりく。娘の父。鄰家のまこと争論と。下ト。振る者有  
 り。り。秋海等と。西居の老と。難くして。竟に暇と。流り。めけり。と  
 次に五三。珍方と。元の家に。引ら。此の後の。銭箱と。携む。ま  
 ばと。夫いけ。色。ま。橋。ま。も。つて。兎も。角も。けら。んと。竟に。橋。ま。ば  
 して。岩。ま。の。村。と。ま。去。り。ま。と。携。く。ま。に。幸。い。ぬ。人。の。ま。を。踏。と。ま。ま。と。

慈悲に泣むるま。久。愛に遅世と。鳴る。一個の。愛女あり。一婦人  
 と。伴して。橋中。ま。辛。苦。せり。此。ま。女。が。履。歴。と。流。出。せ。昔。年。為。掛  
 子。を。授。け。り。有。り。喜。向。の。り。に。非。さ。わ。げ。ま。に。引。り。ま。育。る。子  
 成。一。難。く。容。ふ。不。憐。の。ま。年。ふ。云。合。め。く。地。人。異。妻。の。ま。ん。と。得。ら  
 へ。い。め。ぬ。そ。に。お。り。く。ま。年。我。才。力。を。そ。を。口。を。あ。る。に。徳。岡。十。角  
 と。云。つ。る。武。人。家。子。あ。け。し。ま。竟。に。世。に。ま。い。く。ま。女。と。い。成。一  
 ぬ。ま。ま。ま。ま。ま。年。ま。人。の。子。あ。る。中。と。秘。め。難。く。一。娘。が。子。あ。る。却。に  
 高。後。一。け。色。バ。十。四。も。履。掛。が。履。あ。る。と。知。る。ま。世。お。ら。と。ま。く。一  
 より。實。の。ま。も。ら。ま。年。ま。ま。ま。と。ま。ま。の。ま。知。り。一。ま。り。う。程。年。月



仁九三

天國文庫卷九

〇十五

辰米堂藏版



遅世山中  
に二賊マ  
闘争と

おろし

天國文庫卷九

辰米堂藏版



と送りゆく。十の故有る。まゝと稱し。海人成り。志と武蔵の  
 志人かたむ。響。剣槍法の業と始め。口人と教授し。もるに流計  
 もきうに業せり。彼の侠客の怪人。博音等。回く。門り。の  
 響と受け。結く。勉勵せし。流に云へる。兵法の事。熟。返。其の  
 其。或。時。同。下。俠。客。等。と。闘。争。して。危。ふ。う。り。と。師。の。十。回。に  
 助。け。ら。れ。て。人。命。と。全。ま。せ。し。り。流。恩。小。思。ひ。信。義。と。受  
 ま。る。最。も。厚。う。り。然。る。に。十。回。二。年。は。の。う。病。痛。と。ほ。く。武。州。の  
 業。も。心。に。注。せ。ま。兎。角。小。老。後。と。お。楽。に。送。ら。ん。と。望。む。田。舎。の  
 地。に。開。店。せ。ん。と。欲。し。て。門。人。に。ら。ま。と。も。う。り。福。八。博。吉。の。二。之  
 殊。に。別。れ。し。と。情。を。面。折。千。磨。に。流。ま。留。む。と。も。老。の

遠。徹。放。く。す。は。ま。ま。直。人。と。使。り。武。義。の。関。が。青。柳。御。邊。に。有。る。川  
 野。と。も。里。に。移。住。ま。ま。に。決。り。たり。時。に。運。世。十。二。が。あり。素。の  
 速。く。か。ま。り。く。せ。に。有。る。ま。二。人。の。俠。客。師。の。お。ま。せ。後。運。世。が  
 滞。る。ま。ま。の。お。ま。と。思。ひ。や。り。今。十。行。と。對。し。て。密。に。運。世  
 に。候。し。た。ま。ふ。と。流。へ。つ。普。父。宿。病。有。た。ま。人。は。ま。う。く。ま。渡。り。た。ま  
 ん。も。計。り。知。り。し。と。お。ま。孤。獨。の。身。と。成。り。た。ま。誰。を。使。り。て。ら。り。ま。と  
 送。り。ま。る。ん。ま。時。力。と。あ。る。人。も。く。バ。銭。と。使。り。再。び。あ。ら。へ。來  
 た。ま。う。り。は。今。ま。向。の。流。波。の。場。も。成。り。ん。肌。目。を。脱。き。た。ま。居。之。  
 幾。き。は。も。力。と。成。り。世。作。成。り。ま。せ。ん。志。ま。ら。ま。と。云。合。さ。し。知。雅。心。に  
 も。運。世。二。個。の。志。と。感。じ。令。と。更。納。く。後。の。子。と。約。し。別。の。涙。が。双





つゞ。且慰め且泣め。今の情儀の世の風習あり。他人もたに  
成すにまな左様にて。愛とまらるる男の心連と。妻  
の心根も好く。他の人の詭言と。依むる最も。お母  
ま。支女の身。百年の苦楽。他人に由る。おと愛する人の心を  
らん。あまも。ソの身も。お母も。お母も。お母も。お母も。  
るの起りて。お母も。お母も。お母も。お母も。お母も。  
何せん。お母も。お母も。お母も。お母も。お母も。  
海送る。お母も。お母も。お母も。お母も。お母も。  
お母も。お母も。お母も。お母も。お母も。  
云い。お母も。お母も。お母も。お母も。お母も。

常々。お母も。お母も。お母も。お母も。お母も。  
胸逼り。お母も。お母も。お母も。お母も。お母も。  
叫び。お母も。お母も。お母も。お母も。お母も。  
抱成に。お母も。お母も。お母も。お母も。お母も。  
果て。お母も。お母も。お母も。お母も。お母も。  
送り。お母も。お母も。お母も。お母も。お母も。  
十。お母も。お母も。お母も。お母も。お母も。  
水。お母も。お母も。お母も。お母も。お母も。  
ると。お母も。お母も。お母も。お母も。お母も。  
く。お母も。お母も。お母も。お母も。お母も。

に見病り心と落付く。病の治るるも有らん。他は力  
 つけ。少氣と懸け。子く病と治め。急やく。其れと送るるを  
 せ。妻行へ持てる。令も有。及ぶよ。力と成る。業と商後。一  
 せん。と云。救まね。況論。一。け。沖見も。志に感。塞る  
 細く。洞。人。種。癒。次。身。に。治。り。実。成。る。ま。極。子。見。之。け  
 せ。つ。り。江。井。の。村。に。ま。る。ま。る。も。有。じ。其。も。ま。ま。更。さ。れ。け  
 急。い。く。沖。見。が。ま。ま。引。け。書。と。申。と。せ。お。り。も。は。な。に  
 一。回。り。車。に。力。を。次。次。の。あ。と。り。還。ん。と。て。不。圖。婦。女。の  
 物。持。り。ま。る。形。着。と。つ。け。不。審。一。と。思。ひ。お。り。け。り。過。り  
 の。傍。に。ま。り。樹。木。の。間。お。思。ひ。居。て。物。持。の。大。元。と。す。れ。に。い。

婦女同士の諸人と。一。個。が。金。を。持。て。る。体。あり。に。九。三。三。  
 此。と。願。て。耳。根。に。口。寄。せ。彼。等。を。見。て。何。れ。う。け。り。考。え。に。ゆ。め。  
 山路の目。ま。く。人。の。往。来。も。多。く。一。切。威。掛。け。持。て。る。令。一。仕  
 り。有。ん。と。密。通。の。面。を。推。り。入。女。を。捕。へ。令。を。滅。す。る。最。上。り  
 易。と。業。あ。ら。う。盗。と。働。ん。も。有。り。あ。る。人。非。人。の。差。別。あり。法  
 度。た。る。處。も。こ。そ。密。に。行。も。盗。賊。を。為。ん。に。却。て。身。の。足。り。あ。ら  
 ず。や。已。に。踏。後。も。懸。へ。有。り。踏。後。踏。の。難。後。せ。一。時。ま。ら。う。形。も。急  
 急。と。お。お。り。と。と。止。る。急。を。に。九。三。三。更。に。守。り。も。急。に  
 の。め。婦。女。に。令。一。た。る。天。の。と。ま。り。見。近。し。て。還。ん。に。非  
 急。に。逃。れ。ま。を。倉。り。甲。子。の。急。も。有。り。急。う。り。急。う。り。急。う。り。非。急。

かの婦人と見送一送りして運命をまかす他の罪科あり。刑に  
 死せん。いふ言てより愛憎一なきもいと目あふ見あり。此れ我々  
 みたわく見をへて。各彼を遣りて。あつて有るもあつてもおろ  
 色あく。衝と能くして。二個の婦人があに召も天をなげけり。と  
 寒とて。運命の中も怒もを強く。沖見をほろにちり。既と揚そ  
 勢掛け。我々が路の婦成ハ何奴ある。將塗人々をま交還して通  
 さまやと匂とて。に九と冷笑ひ。アチ苛刻にお言女子ささる家。  
 見も六種婦人の梅子のさききく。山路に掛り。ゆに難儀あつ  
 人。我々強りの悲し先の病まう。回送して。送りほせせん。いかに  
 迎へて扱あり。子をねんと成せを。運命のあつても推拂ひ別て。と

りと成を種婦人々。和を遣の見送りとおまをまをそあとの商を  
 謂いや。妻に因徳つごと。あつて二個のねと云種沖見がまを替へ  
 て押かけけん。まをまを仁たを田ある眼と睨り。揺りくりして。先  
 と遮り止免。送らん。と作り推せしや。我々の人々今と受け。い  
 と持し。いふ言有限りの時。波さす。あつて女子の惜しむ者  
 あつて。此世の引舟渡一果つごと。揺るにを掛け。たまに匂と云  
 つ。運命の星眼と極め。は奴をくものさけ。あつて。あつて。あつて  
 見せ。腹と冷せん。まをまも。晴風の不便ありと思ひ。あつて。あつて  
 とまを和らげ。殺しても命令を奪ん。あつて。あつて。あつて。あつて  
 捨らまを。望に任せ。情の好むまをすべ。晴雲の糸出さん。いふも。あつて



次々と...  
助者の中...  
石と...  
わう。心...  
〜。〜。〜。  
の持物と...  
誤解合ると見...  
大岡政談

明治十四年六月十四日御届  
同年七月九日出版

東京府平民

編輯人 元岡徹太郎

浅草区浅草田原町三丁目  
十五番地

出版人 大川錠吉

浅草区浅草三好町七番地

京橋区弥左工門町十三番地

武田傳右衛門

浅草区浅草新福井町五番地

高梨彌三郎

發賣人



